

ロータリー財団の父
アーチ C. クランフの人となり

別府中央ロータリー・クラブ

鳴海淳郎



はじめに

若き日のアーチ・クランフ 1

比類なきロータリーへの貢献 4

アーチ・クランフ語録 6



Illust. By Larry Frederick

“...we should look at the Foundation as being not something of today or tomorrow, but think of it in terms of the years and generations to come. Rotary is a movement for the centuries.”

— Arch C. Klumph

はじめに

アーチ C. クランフはロータリー財団の父と言われ、ロータリーをこよなく愛した人ですが、貧しい少年時代をへて実業家として大をなしたアーチ・クランフはまた、市民の指導者、フルート奏者、そしてスポーツマンとしても有名で、非常に活力に満ちあふれた人でした。

若き日のアーチ・クランフ

アーチ・クランフは1869年6月6日、ペンシルバニア州・カンノー
トビルの貧しい家庭に生まれました。

父親のモートンJ. クランフはニューヨーク州の田舎の出ですが、
1771年そこに定住しました。

母親はアメリカの有名な小説家ジェームズ・フェニモア・クーパー
(1789~1851)の末裔にあたる人で、子供の頃はよく、この母親から
レーザーストッキング物語などを読んで貰ったりし、アーチは常にそ
の文学的遺産を受け継いだことを誇りにしていました。

また、アーチのミドルネームのイニシアルC. は Cooper の略で、
彼は常にこれを用いていました。

彼の母親はクリーブランドで最初のアマチュア劇団をつくった人で、
子供のころアーチはしばしばその公演に顔を出していました。そして
生涯この一座を愛し続けました。

アーチはまた音楽をも好みました。彼は優れたフルート奏者で、14
年間クリーブランド・シンフォニー・オーケストラの団員で、マネー
ジャーを務めました。その後アマチュア オーケストラのクリーブラ
ンド・ヘアメッツに加わりましたが、晩年インタビューに答えて次
のように語っています。

『わたしは心と知性の完全な調和を求めて努力しています。わたし
の心は音楽にあり、知性はビジネスにあります』と。

アーチは大部分を独学で通しました。

12歳のとき、家計を支えるために学校を去りましたがクリーブランドの社会福祉施設で、夜学に通いながら学力の不足を解消しました。

16歳のとき、クリーブランドの Cuyahoga Lumber Company という会社の給仕となり、1日1ドルの給料を貰いましたが、まもなく出世して社長となり、28年後にはその会社のオーナーになりました。

彼はまた、貯蓄貸付組合の社長や、汽船会社の副社長もしていました。そして、クリーブランド果てはオハイオ州を通して商業活動や地域社会活動を行い、法定不動産業者の代表として活躍しました。

このように、アーチ・クランフは貧しい少年時代を過ごしましたが、ついには米国オハイオ州クリーブランドで実業家として大を成すに至ったのです。



クリーブランド・ヘアメッツでフルートを吹いているアーチ
(1940年初期)



アーチC. クランフ
1916年頃



- Cuyahoga Lumber Company のオフィスにて (1940年頃)
- 会社の給仕をしていた頃のアーチ (16才)

比類なきロータリーへの貢献

しかし、彼が最も愛したのはロータリーでした。ロータリーの目的への献身は比類なきものでした。『ロータリーにとって奉仕の分野を広げる機会は無限にある』と彼は信じていたのです。

1911年（42歳）：クリーブランド・ロータリー・クラブのチャーターメンバー

1912～13年度（43～44歳）：クリーブランド・ロータリー・クラブ会長

彼は自分のことを『寝てもさめてもロータリー』の人間であると言っています。

“thinks Rotary, sleeps Rotary, and dreams Rotary”

クラブ会長としての最後のアドレスで、彼はあらゆる緊急事態に備えた非常時基金（emergency fund）の必要性を訴えました。

1914年（45歳）：国際ロータリー理事

1915年（46歳）：アーチ・クランフの書き上げた全ロータリー・クラブのための標準ロータリー・クラブ定款・細則が採択されました。

1916～17年度（47～48歳）：国際ロータリー会長

アトランタ国際大会で、『ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野で何かよいことをしようではないか』“doing good in the world”という提案をし、採択されました。

その数ヶ月後に、この新しく誕生した基金は、ミズーリ州カンザス・シティー・ロータリー・クラブから米価26ドル50セントという最初の寄付金を受け取りました。

1928年（59歳）：ミネアポリス国際大会が財団の強化を決定したとき、基金は米価5000ドル以上に増えていました。そして、この基金をロータリー財団と改めました。

その後ロータリー財団管理委員を5年間務めました。

1951年6月3日（82歳）：没す

輝かしいロータリー改革者の一人であったアーチ・克蘭フはクリーブランドで死去しました。

幸運なことに、ロータリー財団のために献身的な努力を続けたアーチ・克蘭フは、その存命中に自分の創設したロータリー財団が着実に育っていく姿を見届けることができたのです。

カンザス・シティー・ロータリー・クラブからの26ドル50セントの寄付で、1917年に始まった『非常時基金』が今日、何百万ドルもの大事業に発展し、世界各地からの学生たちに、自国よりも他国において優れている点を勉強する機会を与えているのです。

アーチ・クラフ 語録

※『寝ても さめても ロータリー』

“thinks Rotary, sleeps Rotary, and dreams Rotary”

1912～13年度 クリーブランド・ロータリー・クラブ 会長として

※『ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野で何かよいことをしようではないか。』

“doing good in the world”

1917年 アトランタ国際大会にて

※『もしも われわれが すべての国の人々と知り合いになってその輪を広げ、ロータリーのメンバーという立場で仕事や諸活動にたずさわることが出来れば、これが恒久の平和を保証する相互理解と善意に発展するものであることを、固く信ずるものの一人である。』

1925年 米国オハイオ州クリーブランド国際大会における演説より

※『われわれは この財団を、今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきである。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動であるからだ。』

“Rotary is a movement for the centuries”

1928年 ミネアポリス国際大会後、ロータリー財団管理委員に任命されて

※『ロータリー財団は、レンガや石の記念碑を建てるものではない。
たとえ、大理石に碑銘をきざんだとしても、やがてはくずれてしま
うだろう。真鍮を使ったとしても、いつかは汚れてしまうだろう。
だが、心の中に碑銘をきざむなら、そして、ロータリー精神と、神
をおそれ同胞を愛する気持ちを吹き込むならば、われわれがきざん
だものは永遠に輝き続け、文明の続く限り、ロータリーを不滅のも
のとするだろう。』

ロータリアン誌、1929年4月号

(本稿は1999年11月16日、別府中央ロータリー・クラブ第517回例会に
おける 卓話・「ロータリー財団月間に因んで」を纏めたものである。)

2000年5月

参考文献

1. 若き日のアーチ：ロータリアン誌、1992年11月号（30～31頁）
Early Arch : The Rotarian / November 1992 (p.30～31)
2. アーチ C. クランフ：ポール・ハリスと歴代会長
R I 発行 1997年 (29～32頁)
Arch C. Klumph : Paul Harris and His Successors : Profiles
in Leadership 1997 by Rotary International (p.29～32)
3. ロータリー財団・奉仕の75年：R I 発行 (1992年)
イラスト (ラリー・フレデリック)
The Rotary Foundation • 75 Years of Service :
1992 by The Rotary Foundation of R I
Illust. By Larry Frederick
4. ロータリアン必携 (1985年版) 第7巻・ロータリー財団
財団の歴史 (7～18頁)
5. ロータリアン必携 (1995年版) 第3巻・ロータリー財団
ロータリー財団～その歩み (5～11頁)